

# WebSAM DeploymentManager

## SQL Server 2008 (x64) へのデータベース構築手順書

— 第2版 —

# 目次

|                                                    |    |
|----------------------------------------------------|----|
| 目次.....                                            | 2  |
| はじめに.....                                          | 3  |
| 1 データベース(DPMインスタンス)のインストール.....                    | 4  |
| 1.1 Microsoft SQL Server 2008 Expressのインストール ..... | 4  |
| 1.2 DPMのデータベース作成.....                              | 12 |
| 2 管理サーバ for DPMのインストール.....                        | 14 |
| 3 アンインストール .....                                   | 19 |
| 4 注意事項.....                                        | 20 |
| 5 ログ採取手順.....                                      | 22 |

## はじめに

本書は、DeploymentManager(以下、DPM)で SQL Server 2008 Express (x64)を使用するための手順書です。DPM Ver5.1 では、管理対象コンピュータの情報などの管理用に Microsoft 社が無償で提供している SQL Server 2005 Express Edition を使用していますが、SQL Server 2008 Express を使用する場合の方法について説明します。(本書で説明する内容以外は、DPM の製品ユーザーズガイドを参照してください。)

### [対象製品]

- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 Standard Edition (REVISION:003, 004)
  - WebSAM DeploymentManager Ver5.1 Enterprise Edition (REVISION:003, 004)
- ※REVISION は、製品 CD-ROM のラベルに記載しています。

#### ヒント

「WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール」(NEC サポートポータル[有償]サイトに公開)を適用済みの環境については、それぞれ以下のリビジョン相当となります。

- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(DPM510-001.EXE、DPM\_Patch\_J.zip)を適用済みの環境: REVISION:002
- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(DPM510-003.EXE)を適用済みの環境: REVISION:003
- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(DPM510-004.ZIP)を適用済みの環境: REVISION:004

### [対象 OS]

- (EM64T)Windows Server 2008 Standard x64
- (EM64T)Windows Server 2008 Enterprise x64
- (EM64T)Windows Server 2008 R2 Standard x64 Edition
- (EM64T)Windows Server 2008 R2 Enterprise x64 Edition

#### ヒント

新しいユーザーズガイドが、以下の製品サイトに公開されている場合は、製品サイト掲載のユーザーズガイドを参照してください。

[http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy\\_win/](http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/)

# 1 データベース(DPMインスタンス)のインストール

本章では、データベースのインストール手順について、説明します。

**注意**

管理サーバ for DPM とデータベースは同じコンピュータにインストールしてください。

**ヒント**

SQL Server 2005(x86/x64)/SQL Server 2008(x86/x64)が既にインストールされている環境でも、本章の手順によりデータベースの構築が可能です。

## 1.1 Microsoft SQL Server 2008 Expressのインストール

**注意**

- Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise を使用している場合は、以下の手順で「Microsoft .NET Framework 3.5.1」をインストールすることにより、「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」と、「Microsoft .NET Framework 3.5 日本語 SP1 Language Pack」のインストールは不要となります。(1)での該当モジュールのダウンロードおよび(3)の手順は不要になります。
  - 1) 該当のコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
  - 2) 「スタート」メニュー→「管理ツール」→「サーバー マネージャー」をクリックします。
  - 3) 「サーバー マネージャー」画面が表示されますので、左ペインの「機能」を右クリックして、「機能の追加」ボタンをクリックします。
  - 4) 「機能追加ウィザード」の「機能の選択」画面が表示されますので、「.NET Framework 3.5.1 の機能」配下の「.NET Framework 3.5.1」のチェックボックスにチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。
  - 5) 「インストール オプションの確認」画面が表示されますので、「インストール」ボタンをクリックします。
  - 6) 「インストールの結果」画面が表示されますので、「閉じる」ボタンをクリックします。  
※Windows 自動更新に関する警告が出る場合がありますが、無視して「閉じる」ボタンをクリックしてください。
- Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise を使用している場合には、「Windows Installer 4.5 Redistributable」のインストールは不要となります。(1)での該当モジュールのダウンロードおよび(4)の手順は不要となります。
- データベースをインストールするコンピュータに「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」、「Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack」、「Windows Installer 4.5 Redistributable - 日本語」が既にインストールされている場合は、改めて本手順にてダウンロード/適用の必要はありません(「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「プログラムと機能」から確認してください)。Windows Installer のバージョンはコマンドプロンプトより msixec.exe コマンドを実行して確認してください。インストール済みのものについては、以降の該当コンポーネントのインストール手順を適宜読み飛ばしてください。

- (1) データベースをインストールするために Microsoft ダウンロードセンター(以下のページ)から、以下のファイルを取得します。

**ヒント**

DPM Ver.5.1(REVISION:004)を使用している場合は、DPM の製品インストール CD-ROM に以下のモジュールを同梱していますので、ダウンロードする必要はありません。

- ・Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1
- ・Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

- Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1(ファイル名:dotnetfx35setup.exe)  
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=AB99342F-5D1A-413D-8319-81DA479AB0D7&displaylang=ja>

**ヒント**

データベースをインストールするコンピュータがインターネットに接続できない場合は、上記ページに掲載の「フル パッケージ」の方を取得してください。

- Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack(ファイル名:dotnetfx35langpack\_x64ja.exe)  
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=8489ed13-b831-4855-96f7-dd35e4c02a20&DisplayLang=ja>
- Windows Installer 4.5 Redistributable – 日本語(ファイル名:Windows6.0-KB942288-v2-x64.msu)  
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=5a58b56f-60b6-4412-95b9-54d056d6f9f4>
- Microsoft SQL Server 2008 Express(ファイル名:SQLEXPRESS\_x64\_JPN.exe)  
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=58ce885d-508b-45c8-9fd3-118edd8e6fff>

(2) データベースをインストールするコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログオンします。

(3) 使用する製品によって、以下の操作を行ってください。

- DPM Ver.5.1(REVISION:004)を使用している場合:

ユーザズガイド 導入編「2.2.2 データベースのカスタムインストール」を参照して、「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」と、「Microsoft NET Framework 3.5 日本語 SP1 Language Pack」をインストールしてください。

- DPM Ver.5.1(REVISION:003)を使用している場合:

以下の手順を行ってください。

- 1)(1)で取得した「dotnetfx35setup.exe」を実行して、「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」のインストールを開始します。
- 2)「セットアップへようこそ」画面が表示されますので、ライセンス条項を確認し「同意する」を選択して、「インストール」ボタンをクリックします。
- 3)「セットアップが完了しました」画面が表示されますので、「終了」ボタンをクリックします。

**ヒント**

コンピュータの再起動を要求する画面が表示された場合は、画面の指示に従って、コンピュータの再起動を行ってください。

4)(1)で取得した「dotnetfx35langpack\_x64ja.exe」を実行して、「Microsoft NET Framework 3.5 日本語 SP1 Language Pack」のインストールを開始します。

5)「セットアップへようこそ」画面が表示されますので、ライセンス条項を確認し「同意する」を選択して、「インストール」ボタンをクリックします。

6)「セットアップが完了しました」画面が表示されますので、「終了」ボタンをクリックします。

(4) (1)で取得した「Windows6.0-KB942288-v2-x64.msu」を実行して、画面の指示に従い「Windows Installer 4.5 Redistributable - 日本語」をインストールします。

**ヒント**

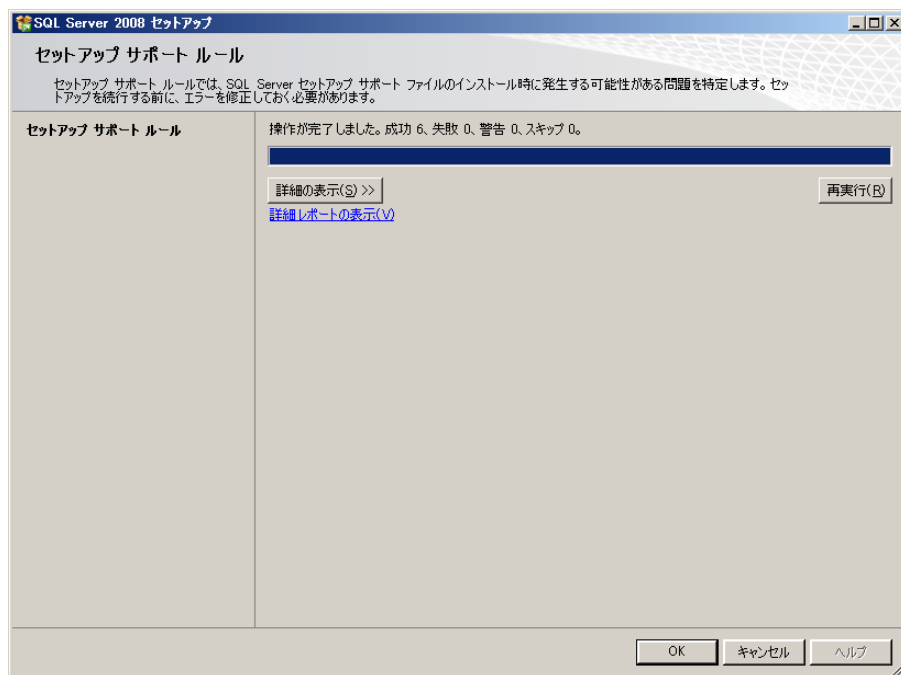
コンピュータの再起動を要求する画面が表示された場合は、画面の指示に従って、コンピュータの再起動を行ってください。

(5) (1)で取得した「SQLEXPRESS\_x64\_JPN.exe」を実行して、「Microsoft SQL Server 2008 Express」のインストールを開始します。

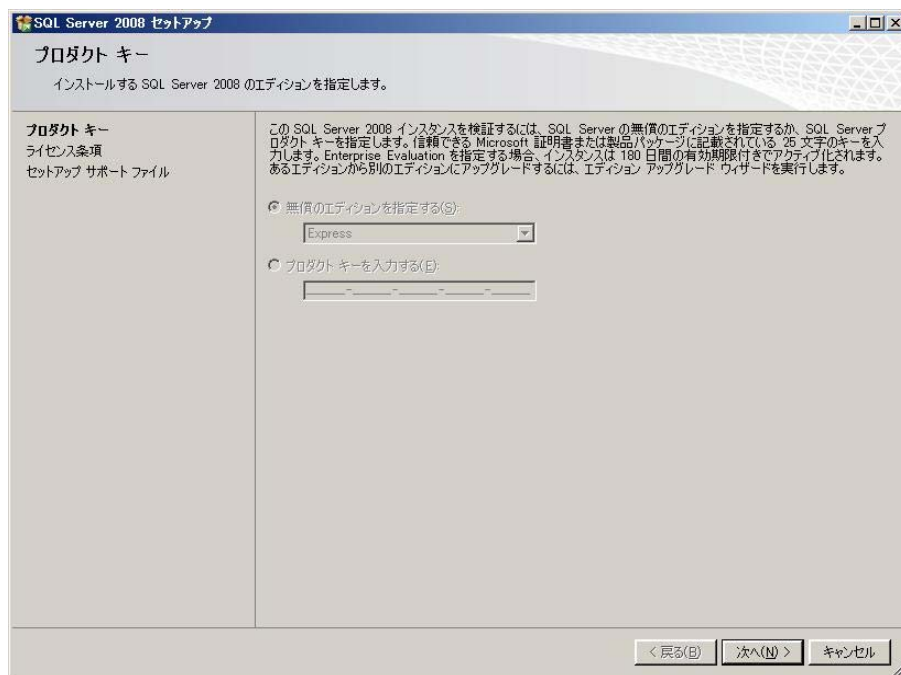
(6) 以下の画面が表示されますので、画面左側の「インストール」をクリックした後に、画面右側の「SQL Server の新規スタンドアロン インストールまたは既存のインストールへの機能の追加」をクリックします。



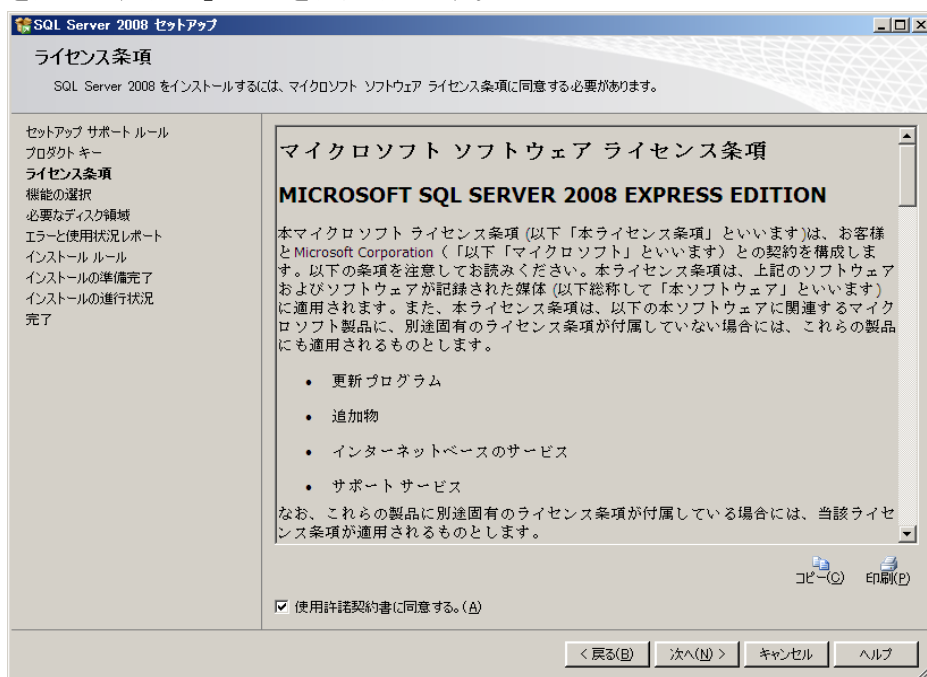
- (7) 「セットアップ サポート ルール」画面が表示されますので、内容を確認して、問題が無ければ「OK」ボタンをクリックします。



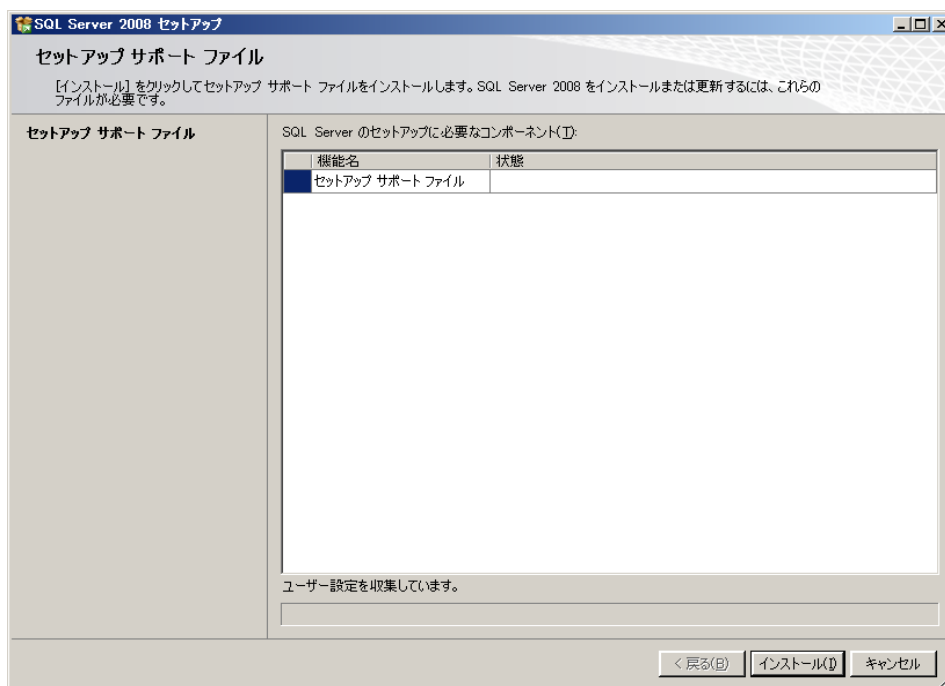
- (8) 「プロダクト キー」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



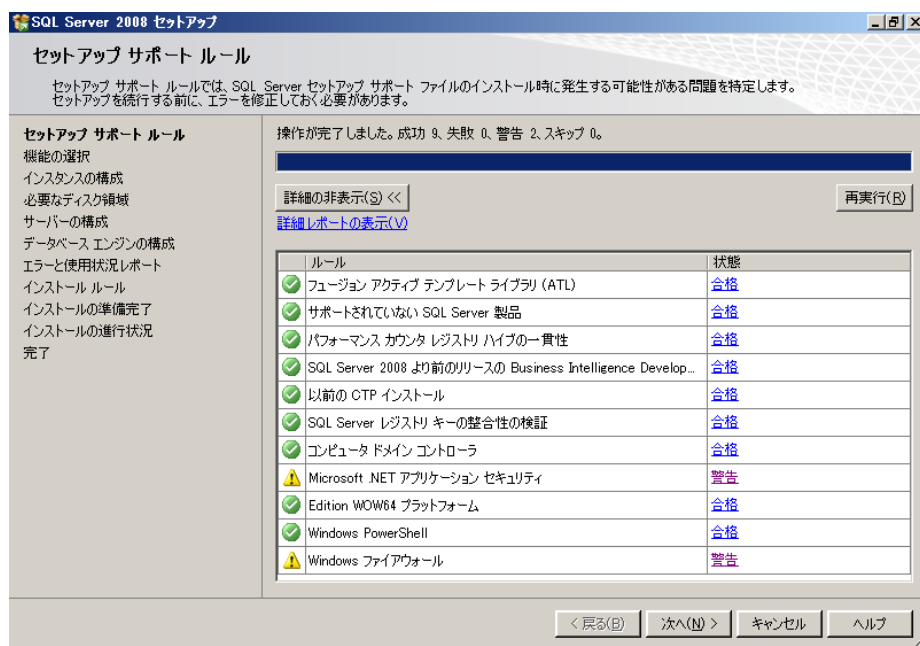
- (9) 「ライセンス条項」画面が表示されますので、使用許諾契約書を確認し「使用許諾契約書に同意する」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。



- (10) 「セットアップ サポート ファイル」画面が表示されますので、「インストール」ボタンをクリックします。



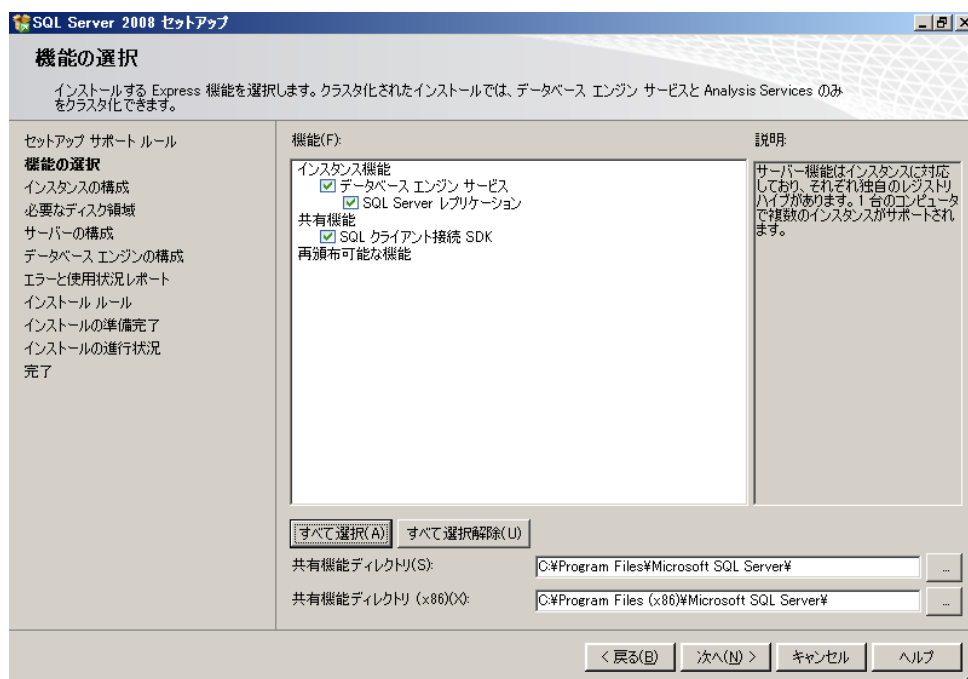
(11)「セットアップ サポート ルール」画面が表示されますので、内容を確認して、「次へ」ボタンをクリックします。



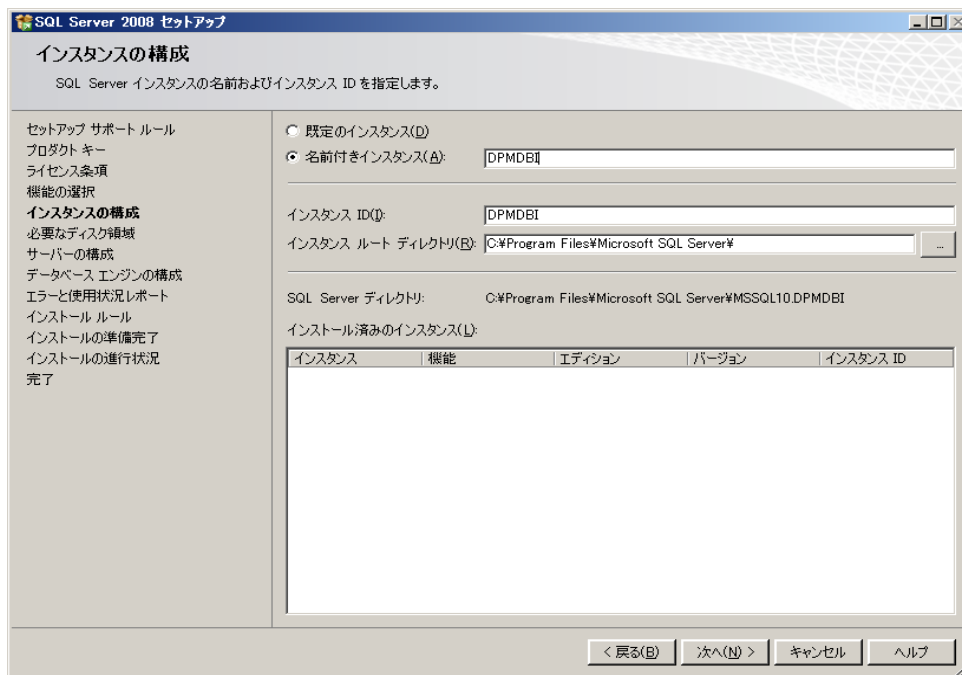
ヒント

「Microsoft .NET アプリケーション セキュリティ」や、「Windows ファイアウォール」の状態に「警告」が表示される場合がありますが、無視してインストールを進めてください。

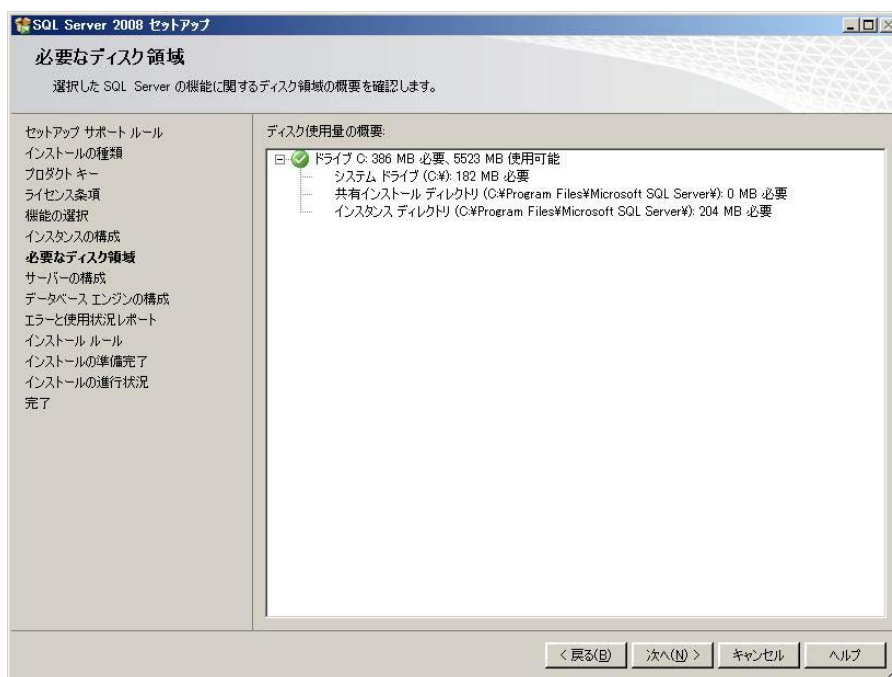
(12)「機能の選択」画面が表示されますので、「すべて選択」ボタンをクリックした後に「次へ」ボタンをクリックします。



- (13)「インスタンスの構成」画面が表示されますので、「名前付きインスタンス」を選択した後に「DPMDBI」と入力して、「次へ」ボタンをクリックします。

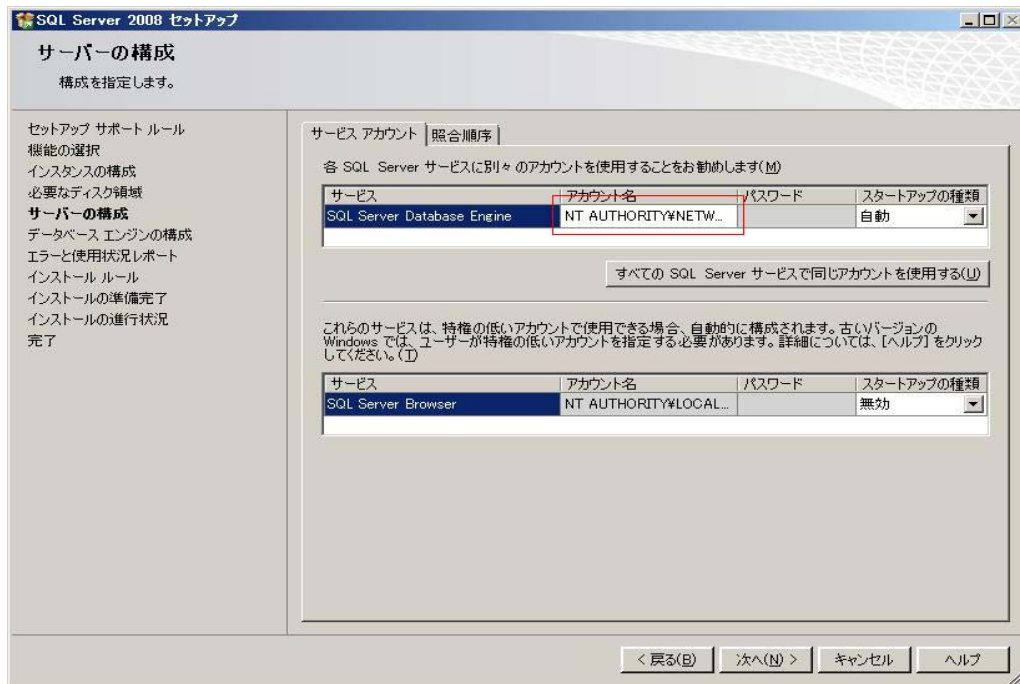


- (14)「必要なディスク領域」画面が表示されますので、内容を確認して、「次へ」ボタンをクリックします。



(15)「サーバーの構成」画面が表示されますので、「サービス アカウント」タブを選択します。

「SQL Server Database Engine」の「アカウント名」に「NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE」を指定して、「次へ」ボタンをクリックします。



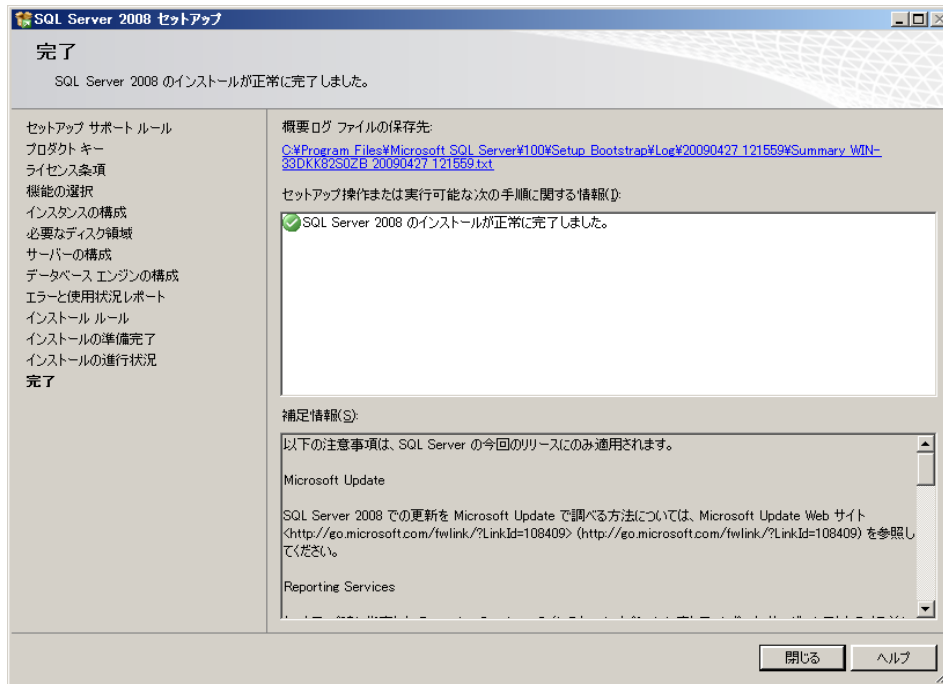
(16)「データベース エンジンの構成」画面が表示されますので、「アカウントの準備」タブを選択します。

「Windows 認証モード」を選択し「SQL Server 管理者の指定」で「現在のユーザーの追加」ボタンをクリックして、「次へ」ボタンをクリックします。



(17)残りの項目は既定値のままで問題ありませんので、「次へ」ボタンをクリックしてインストールを進めてください。

- (18)「完了」画面に「SQL Server 2008 のインストールが正常に完了しました。」と、表示されたら「閉じる」ボタンをクリックします。



- (19)Microsoft SQL Server 2008 Express をインストールしたユーザ以外でも DPM を使用する場合は、コマンドプロンプトを「管理者として実行」から起動して、ユーザごとに以下のコマンドを実行します。

・ドメインユーザの場合：

```
sqlcmd -S .¥DPMDBI -E -Q "EXEC sp_addsrvrolemember 'ドメイン名¥ユーザ名', 'sysadmin'"
```

・ドメインユーザ以外の場合：

```
sqlcmd -S .¥DPMDBI -E -Q "EXEC sp_addsrvrolemember 'マシン名¥ユーザ名', 'sysadmin'"
```

以上で、「Microsoft SQL Server 2008 Express」のインストールは完了です。

## 1.2 DPMのデータベース作成

- (1) 「スタート」メニュー→「ファイル名を指定して実行」を選択して、「名前」に「regedit」を入力した後に「OK」ボタンをクリックします。

- (2) 「レジストリ エディタ」が起動しますので、以下のレジストリを追加します。

- ・キー： HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager\_DB
- ・名前： DBInstallDir
- ・データ： C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10. DPMDBI¥MSSQL¥DATA

### 注意

レジストリエディタの使い方を誤ると、深刻な問題が発生することがあります。レジストリの編集には十分に注意してください。

(3) コマンドプロンプトを起動して、下記コマンドを実行します。

```
osql. exe -E -S "localhost¥DPMDBI" -i "<インストール CD-ROM>:¥Setup¥DB¥db_install. sql" -o "C:¥temp¥DBInst. log"
```

ヒント

「C:¥temp¥DBInst.log」は、ログファイルの出力先です。任意のファイルパスを指定してください。

(4) (3)で作成した「DBInst.log」に下記のような情報が出力されていれば、データベースの構築は完了です。

-----  
NULL

(1 行処理されました)

(1 行処理されました)

-----  
STATUS CODE:2101

データベース 'DPM' の 248 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM' を処理しました。

データベース 'DPM' の 7 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM\_LOG' を処理しました。

データベース 'DPM'

BACKUP DATABASE により 255 ページが 0.371 秒間で正常に処理されました(5.365MB/秒)。

-----  
0

以上で、「DPM のデータベース作成」は完了です。

ヒント

Microsoft社のサイトにて、Microsoft SQL Server 2008 Express の Service Pack が公開されている場合は、ダウンロードして対象のインスタンスに適用することを推奨します。

## 2 管理サーバ for DPMのインストール

本章では、DPM Ver.5.1(REVISION:004)を使用している場合の管理サーバ for DPM のインストール手順について、説明します。

### 注意

管理サーバ for DPM とデータベースは同じコンピュータにインストールしてください。

### ヒント

DPM Ver.5.1(REVISION:003)を使用している場合は、以下の資料を参照してください。

製品サイト([http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy\\_win/](http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/))

→「ダウンロード」を選択

→「Windows Server 2008(x64)へのインストールガイド」の「3 管理サーバ for DPM のインストール」

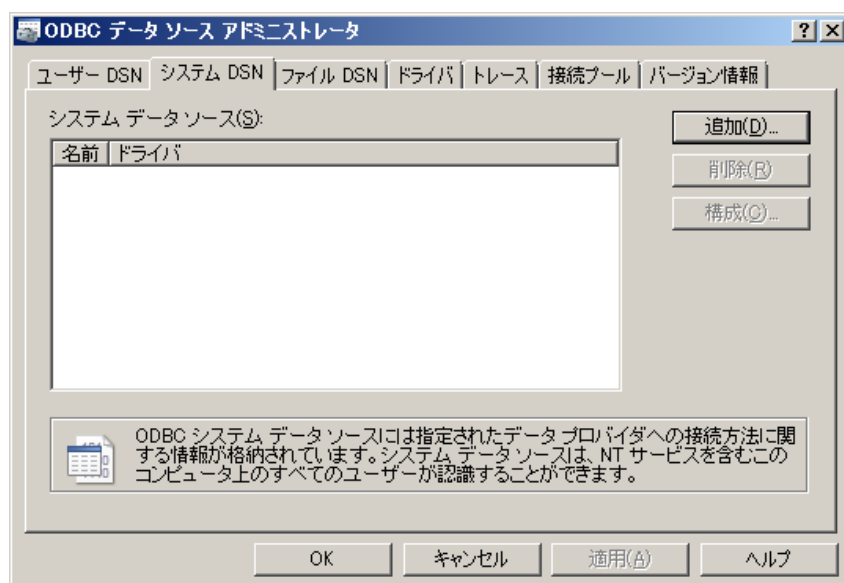
- (1) 管理サーバ for DPM をインストールするコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログインします。
- (2) ユーザーズガイド 導入編「2.3.1 管理サーバ for DPM の標準インストール」を参照して、「データベースサーバ IP アドレス入力」画面まで、インストールを進めてください。
- (3) 「データベースサーバ IP アドレス入力」画面が表示されますので、データベースサーバの IP アドレスを入力して、「次へ」ボタンをクリックします。



- (4) コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行してください。

```
%windir%\¥SysWOW64¥odbcad32.exe
```

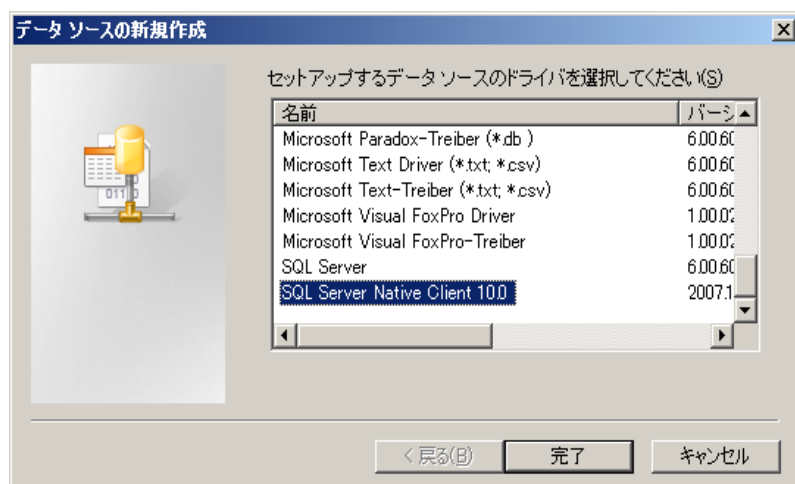
- (5) 「ODBC データ ソース アドミニストレータ」画面が表示されますので、「システム DSN」タブを選択後に「追加」ボタンをクリックします。



**注意**

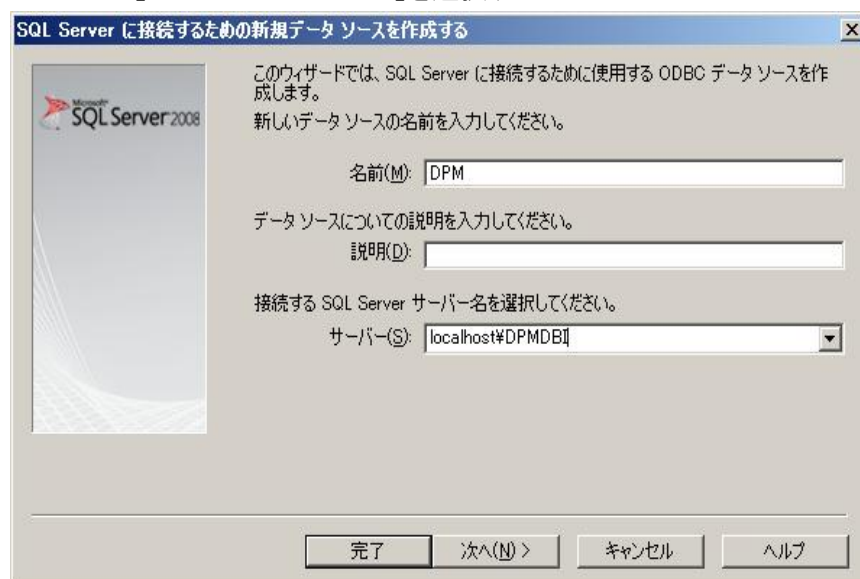
「DPM」という DSN が既に存在している場合は、削除してください。

- (6) 「データ ソースの新規作成」画面が表示されますので、「SQL Server Native Client 10.0」を選択した後に「完了」ボタンをクリックします。

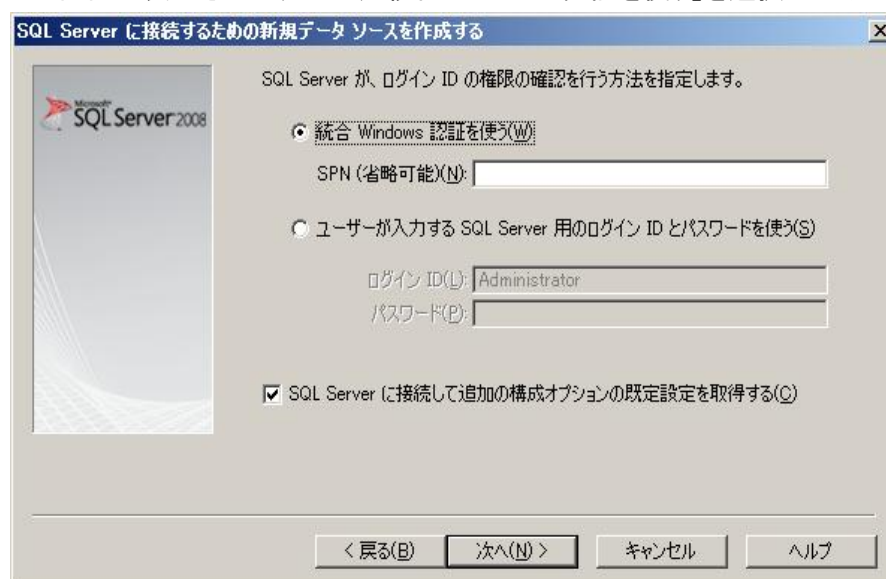


(7) 「SQL Server に接続するための新規データソースを作成する」画面が表示されますので、以下の項目を設定して、「次へ」ボタンをクリックします。

- ・「名前」:「DPM」と入力する
- ・「サーバー」:「localhost¥DPMDBI」を選択する



(8) 以下の画面が表示されますので、「統合 Windows 認証を使う」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



- (9) 「Microsoft SQL Server 用の DSN の設定」画面が表示されますので、「既定のデータベースを以下に変更する」にチェックを入れて、既定のデータベースを「DPM」に変更後に「次へ」ボタンをクリックします。

Microsoft SQL Server 用の DSN の設定

☒ 既定のデータベースを以下に変更する(D):  
DPM  
ミラー サーバー(M):  
ミラー サーバーの SPN (省略可能)(P):  
☐ データベース ファイル名を添付する(H):  
☒ ANSI の引用符付き識別子を使用する(U)  
☒ ANSI の NULL、埋め込み文字、警告を使用する(A)

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル    ヘルプ

- (10) 以下の画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックします。

Microsoft SQL Server 用の DSN の設定

☐ SQL Server のシステム メッセージを以下の言語に変更する(C):  
Japanese  
☐ データに強力な暗号を使用する(Y)  
☒ 文字データを変換する(P)  
☐ 出力時の通貨、数値、日付、時刻の形式にはシステムの地域設定を使用する(U)  
☐ 実行時間が長いクエリを以下のログ ファイルに保存する(S):  
C:\Users\ADMINI~1\AppData\Local\Temp\QUERY.L...    参照(R) ...  
保存するクエリの最短所要時間 (ミリ秒)(L): 30000  
☐ ODBC ドライバの統計情報ログを以下のログ ファイルに保存する(Q):  
C:\Users\ADMINI~1\AppData\Local\Temp\STATS.LC...    参照(W) ...

< 戻る(B)    完了    キャンセル    ヘルプ

- (11)「DeploymentManager(管理サーバ for DPM) セットアップ」ウィザードの「管理サーバ ID 入力」画面に戻り、サーバ ID に任意の値を入力して、「次へ」ボタンをクリックします。



- (12)「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されますので「完了」ボタンをクリックして、コンピュータを再起動してください。

以上で、「管理サーバ for DPM」のインストールは完了です。

### 3 アンインストール

本章では、前述のインストール手順でインストールした各コンポーネントをアンインストールする場合の手順について、説明します。

■データベース以外のコンポーネントについては、ユーザズガイド 基本操作編「21 DPM のアンインストール」を参照して、アンインストールしてください。

なお、JRE/Tomcat のバージョンは、本手順書にてインストールしたバージョンに適宜読み替えて作業してください。

■データベースをアンインストールする場合

- (1) データベースをアンインストールするコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログインします。
- (2) 「スタート」メニュー→「コントロール パネル」→「プログラム」→「プログラムと機能」で、「Microsoft SQL Server 2008(64-bit)」を選択して、アンインストールしてください。「インスタンスの選択」画面では「DPMDBI」を選択してください。「機能の選択」画面では、DPMDBI 配下の”データベースエンジンサービス”、”SQL Serverレプリケーション”を選択してください。”SQL クライアント接続 SDK”のアンインストールについては任意です。
- (3) フォルダ「(SQL Server のインストールフォルダ)¥MSSQL10.DPMDBI¥MSSQL¥DATA」の配下のすべてのファイルを削除してください。  
(例)「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10.DPMDBI¥MSSQL¥DATA」
- (4) 1.2 章(2)で作成したレジストリキーを削除してください。  
「HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager\_DB」

以上で、データベース(DPM インスタンス)のアンインストールは完了です。

## 4 注意事項

本章では、Microsoft SQL Server 2008 Express にデータベースを構築した際の注意事項を説明します。

■以下の全てに該当する環境に対して、WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(Update4)を適用する場合:

- ・DPM Ver.5.1(REVISION:003)を使用している
- ・以下の資料を参照して、管理サーバ for DPM を x64 環境にインストールし、かつ、データベースを Microsoft SQL Server 2008 Express(x64)で運用している場合
  - ・本書
  - ・製品サイト([http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy\\_win/](http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/))
    - 「ダウンロード」を選択
    - 「Windows Server 2008(x64)へのインストールガイド」

NEC サポートポータル(有償)サイトから、WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(Update4)[DPM510-004.ZIP]と、リリースノート[Readme.txt]を取得して、リリースノートに記載の手順(「4. インストール方法」の「●管理サーバ for DPM」)に沿ってアップデートモジュールを適用してください。なお、適用の際は、以下に注意してください。

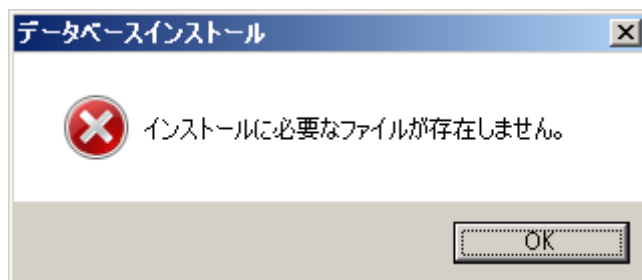
・(3)-2)を行った後に以下のレジストリを追加してください。

- キー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥DeploymentManager\_DB
- 名前: VersionDatabase
- データ: 5.13

・(4)-2)を以下に読み替えてください。

1.インストーラが起動し、アップデートモジュールのインストールが始まります。

以下のエラーメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックせずに、2.の手順へ進んでください。



2.コマンドプロンプトを起動して、下記コマンドを実行します。

(下記コマンドは、表記の都合上 2 行で記載していますが、1 行で入力してください。)

```
osql.exe -E -S "localhost¥DPMDBI" -i "<データベースのインストールパス>¥UpdateDPMDBY  
Setup¥DB¥db_install.sql" -o "C:¥temp¥DBInst.log"
```

### ヒント

「データベースのインストールパス」は、「C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥」です。  
また、「C:¥temp¥DBInst.log」は、ログファイルの出力先です。任意のファイルパスを指定してください。

3.2.で作成した「DBInst.log」に下記のような情報が出力されていれば、データベースのアップデートは完了です。

```
-----  
NULL  
(1 行処理されました)  
(1 行処理されました)  
-----  
STATUS CODE:2101  
データベース 'DPM' の 248 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM' を処理しました。  
データベース 'DPM' の 7 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM_LOG' を処理しました。  
データベース 'DPM'  
BACKUP DATABASE により 255 ページが 0.371 秒間で正常に処理されました(5.365MB/秒)。  
-----  
0
```

4.1.のエラーメッセージの画面に戻り、「OK」ボタンをクリックします。

5.「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されますので「完了」ボタンをクリックします。

## 5 ログ採取手順

SQL Server 2008 Express (x64)のログについては、ユーザーズガイド 応用編「障害発生時のお問い合わせについて」-「ログ採取手順(Windows IA32/EM64T)」に記載のコマンド(DpmLog.exe)では採取できませんので、以下の手順に従って採取してください。(ユーザーズガイド 応用編「障害発生時のお問い合わせについて」をあわせて参照してください。)

- (1) ユーザーズガイド 応用編「障害発生時のお問い合わせについて」-「ログ採取手順(Windows IA32/EM64T)」の(1)-(4)に従って、Dpmlog.exe を実行してください。
- (2) 保存先の「log」フォルダ配下に、フォルダ「DPM\_DB\_Backup」と「DPM\_DB\_DBILog」を作成してください。
- (3) コマンドプロンプトを起動して、下記コマンドを実行してください。  
`sqlcmd -E -S localhost¥DPMDBI -I 30 -Q "BACKUP DATABASE DPM TO disk='DPM_DATABASE_DpmlogCreated.backup' with INIT"`
- (4) 「インスタンスルートディレクトリ¥MSSQL10.DPMDBI¥MSSQL¥Backup」配下の「DPM\_DATABASE\_DpmlogCreated.backup」というファイルを「DPM\_DB\_Backup」へコピーしてください。
- (5) 「インスタンスルートディレクトリ¥MSSQL10.DPMDBI¥MSSQL¥Log」配下のすべてファイルを「DPM\_DB\_DBILog」へコピーしてください。
- (6) log フォルダ配下を圧縮して送付してください。

※インスタンスルートディレクトリは、1.1 章「Microsoft SQL Server 2008 Express のインストール」(13)の図を参照ください。